

# 糸魚川市駅北まちづくり会議 第2回実践会議 記録

日時	令和元年9月28日(土) 9:30~12:00	会場	市役所市民ホール
進行	1 開 会 2 経過説明、参考資料説明 3 講義 講師ハバタク株式会社 代表取締役 丑田俊輔 様 4 意見交換、協議 5 その他、連絡事項		
出席者	花重 磯貝 正子 (個店の魅力アップ女性の会 顧問) リノベーションスクール@糸魚川 サブユニットマスター 猪又直登 有限会社二葉デンキ商会 代表取締役 加藤 康太郎 株式会社BASE968 取締役 小出 薫 おもちゃ木のこ 代表 齊藤 里沙 リノベーションスクール@糸魚川 ユニットA企画者 松木 美沙子 個店の魅力アップ女性の会 会長 室川 亜紀 外部アドバイザー 西村 浩 (座長)		
会議概要			
1 開 会 2 経過説明 ○前回からの振り返り (座長) テーマ、スケジュール資料説明 ○参考資料の説明 (こども課、生涯学習課、復興推進課)  3 講義 (概要) <b>○自己紹介</b> ・学生時代に遊休不動産を民間に賃貸借した公共施設のシェアオフィス「ちよだプラットフォームスクウェア」の企画に携わった。 ・IBM を退社後、世界を旅しながら、様々な国の教育について関心を持つようになった。子どもが産まれたことをきっかけに「教育」が自分ごとになり、教育関連事業を立ち上げ、2010年にハバタクを創業した。 ・2014年から秋田県五城目町に移住し、協働で新たな事業が生まれるなど、事業規模が拡大し、地域に力があふれるような、持続的に地域が活性化する仕組みづくりを実践している。 ・子どもだけでなく大人も遊びながら楽しむことをテーマに、事業を展開しており、人をはじめさまざまな繋がりが地域に生れる。			

## ○五城目町での取り組み

### ① シェアオフィス

- ・ 築年数が浅い廃校を活用し、1 エリア 2~3 万程度のレンタルオフィスをつくった。新たに起業・創業した人や会社などを中心に、現在 20 社程度が集まっている。
- ・ 地域の目を気にせずに自分の考える事業を計画できる環境ができていると感じている。事業規模が小さい会社でも社会にインパクトを与えることは十分可能である。

### ②シェアビレッジ

- ・ 移住するかしないか、という 0 か 1 の選択ということに少なからず違和感を持っていた時に、取り壊し予定の茅葺屋根の古民家に出会い、シェアビレッジ (=会員制第二の住処事業) 事業を実施した。
- ・ クラウドファンディングで資金を集め、屋根の修繕等を行い「開村」としてオープンした。年会費 (=年貢) を納めて会員になっていただき会員限定のサービスを提供している (古民家への宿泊や農作業)。
- ・ 会員になった方たちは、自由に古民家へ来て、地元の人と交流できるため、住んではいなくても関係人口がどんどん増えている。
- ・ 会員は、首都圏在住の方も多いため、東京ではそうした方々を対象に「寄合」という名の交流会を行い、五城目町に行かなくても交流できるようなイベントを開催している。
- ・ 古民家では、年 1 回「一揆」と称した祭りを開催し、一大行事である。
- ・ 古民家を維持・保全するだけでなく、そこにエンターテインメント性が加わることで、楽しさを増大することが重要である。

### ③朝市

- ・ 約 520 年前から続いているという朝市は、文化として根づいている反面、新たに若い人たちが出店、参加するにはハードルが高かったが、若い人たちの起業につながる場にならないかと考え、チャレンジやプロモーションの場にもなるような仕組みをつくった。
- ・ 朝市から発展してまちなかに新たな店ができたり、朝市の入り口にある酒屋が刺激を受け、新たな施設を整備する、といった相乗効果が生まれており、新たなプレイヤーが入って来ることによる適度なゆらぎがまちには必要だと感じている。

### ④地域の次世代が育つ環境づくり

- ・ 秋田県にある国際教養大学にいる留学生を招き、中学校の総合学習と連携し、生徒たちが様々な国の人と交流できるような取り組みを行っている。
- ・ 五城目小学校新校舎整備の際に、住民参加型 (ワークショップ形式) で設計され、地域の誰もが入学できるという「生涯学べる小学校」をコンセプトに設計され、真ん中に多世代エリアが設定されている。
- ・ 教育の遊動化を進めたいと思っており、期間限定で転校できるような仕組みを作りたい。児童の泊まる場所として教育民泊というような施設を用意して、子どもを預かる想定をしており、近いうちに事業を開始する。

## ⑤ただの遊び場

- ・子どもも大人も楽しめるような場所を作りたいと思い、空き家を活用して、「ただの遊び場」をつくった。
- ・初期投資はクラウドファンディングや補助金を活用し、地域の人たちとのDIYや本の提供等によってオープンした。今では、地域の子どもたちや親たちのたまり場となっている。
- ・一部有料プログラムを提供し、最低限の運営費に充て、地域の方と連携して子どもの見守りを行っている。

## 《まとめ》

「遊び、学び続ける地域社会」の実現によって、暮らし方や働き方、つながり方も変わってくる。学校教育だけでなく、日常の暮らし、地域 社会の中でも学びの環境を作り、人がいろいろな場所で学べるような場所ができるのが良い。

現在、山を里山テーマパークにして遊べるような空間をつくりたいと考えている。「わくわくする」気持ちが原動力となって、結果的に地域 課題の解決につながっていくと考えている。

## 4 意見交換 ※部分筆記

(座長) やりたいこと、感想などどうぞ。

(委員) 2才、0才の子どもがおり、始めての子育てを糸魚川で始めた。自然、キャンプ、木のおもちゃが大好きで、子育てを楽しみにしていたが、やってみたら意外に思ったのと違う状況だった。子どもが通りに歩いていない、公園に子どもがいない、自分の子どもときの経験とは違っていた。家にいると親と子が一対一になってしまい、家にいると大人としゃべりたいと思って、仲良くなったママと、もうちょっとしゃべりたいと思っても行ける場がないのがもったいない。糸魚川で子育て楽しめると思ったが、そこでつまずいたことが残念だった。0, 1, 2才の子育てが楽しいまちになれば、もっと良い街になるなど考えている。遊べる場があれば作りたいと考えている。

(講師) 0, 1, 2才のたまり場を作った横浜から移住した女性がいた。空き家をクラウドファンディングで改修して、ほぼボランティアの活動で、助けられている人も多い。

(座長) ボランティアということは、こういう場所が良いということで作ったということ。やりたいことがあったのか。

(講師) 秋田で森の幼稚園を立ち上げたいということで、その仲間づくりも立ち上げた目的の1つのような。

(委員) 茨城の幼稚園に通っていたが、糸魚川に戻ってきた。都会から帰ってきて不安もあったが、田舎の不便さにも慣れてきた。リノベーションスクールで生まれたまちを再認識した。やりたいことはボランティアでなく、稼いでいくことも必要と

思っている。

(座長) 丑田さんのやっていることも1つ1つ積み上げていると思う。軽々と乗り越えているように見えるが、どういうことに注意して行動するか。

(講師) 自分の場合は、地域の空気を読みすぎず、小さな関係者との関係性を良好にしておく。いろんなことを自分事としてやり、人の共感を求めすぎずに始めていく。小さくステップを重ねていくことが大切と思う。民間と公共だとスタンスも変わってくる。地域みんなが良いことを意識せず、ちょっと尖ったことを積み重ねていくことが大切と思う。

＝講師退席＝

(座長) 委員みなさんいかがですか。

(委員) シングルで子どもを育てているが、手を差し伸べてくれという感覚よりも「どうにかして子どもを育てていくぞ」という意思があると思う。そんな人達が気持ちを発散する場が地域にあるとよいかと。自分も地域も育てる子育てを進めるためにできることをコツコツやっていくことが大切だと思う。家では、目的と手段をごちゃ混ぜにしてはいけないと考えていて、さらに手段は“楽しい”に越したことはないということをもットーにしている。

(座長) 地域で育てるという機運だったり、一人一人の気持ちをどう作っていくかを考えていかなければならない。また「支援」でなく、違う言葉を考える必要があるかもしれない。丑田さんの取り組みも言葉をうまく使っている。

(委員) 思った以上に糸魚川に来て、毎日声を掛け合ったり、野菜をもっていったり、地域とのつながりは強いなど感じている。ここだからできる子育てってあるのでは。

(座長) ここだから、糸魚川だからできる子育てって重要ですね。国とかから降りてきた制度などを単純にこなしていくということじゃないですよ。ここから周りの委員にも聞いてみたいのですが、街にいる男性としてひらめいたことありますか。

(委員) 自分の会社でも最前線で活躍しているお母さんが多くいる。国では働き方改革で単純に休みを増やすという施策を打ち出している。経営者・男性の視点かもしれないが、一生懸命に仕事をやっている人に、単に休みを多くしても、果たして本人に納得感はあるのか少し疑問に思う。企業ももうちょっとできることがあるんじゃないか。自社で夏のイベントを企画しているが、会社の中でつながる場を作っていきたいという声が出てきている。昔は町工場で親が働きその横で子どもがいる情景があり、そんな場所で子どもの人間形成もされてきたように思う。しごと・子育てをどちらか1つというのではなく、どちらもつなげて考えることが必要な気がしている。

(座長) 丑田さんのような適度な外来種は必要。糸魚川の企業が1つずつ自社の子育て協力案をあげてみようというチャレンジも面白いかも。

(委員) コンテスト的なものも良いと思う。企業も(従業員も)本気になる。

(座長) 企業人が頑張ることも大事かと。

(委員) 丑田さんのお話を聞いて、自分が楽しいからみんながついていくんだろうと。

自分の経験として子育てしながら自分が育てられたという感が強い。昔は家におじいちゃんおばあちゃんが居たが、今は助けてあげられる人が近くにいない。従業員には「子育て一緒に頑張るから」と言って、できる限り協力するようにしている。

(座長) 企業の協力がないと子育ては難しい。地域のなかにセーフティーネットがあることが、安心して暮らせる社会につながる。どうしても親族しかいない、近くにいないというところにストレスが生まれる。核家族化が進んでいくというところはしょうがないところとして、ここにセーフティーネットをどう作るかを考えることがよさそう。

(委員) 子育てを担う視点でなく、子どもに向けて何ができるかということを考えると、自分の場合、自主性を伸ばしてもらったところ。プレイフルという言葉があったが、わくわくすることと五感を使うという組み合わせが良かった。わくわくする体験を増やしていき、糸魚川では世間知りすぎの子どもが多くなると良い気がしている。大事な存在を大切に作る体験も必要と思っている。

(座長) 「糸魚川の子どもって、何でも自分で作れるすごいね。」ってことができそうな環境がたくさんある。そういうことが1つの教育というものにも組み込まれていければ良い。

(委員) 子育ては楽しい思い出しかないが、大人はアイデアですが子ども達が何をしたいのかなということ聞いてみることもいいかなと思う。地域で育てるということならお手伝いできるのかなと思った。話は変わるが、駅北の商店街で大切な義援金をお預かりしていて、どうしていくかを商店街の皆さんと考えている。丑田さんの「ただのアソビバ」金額的にちょうどいいなど。次の会議に提案してみたいと思う。

(座長) 資金のお話しありがとうございます。作って終わりではなく、多くの人が関わって運営できることが大切。

(委員) AIの時代が来るって言われているが、AIでは遊ぶ・体験は実際できない。都会と田舎で学びあえるけど、田舎でも様々な体験ができていない。地域の課題を実験的にこなしていくということが必要。おじいちゃんおばあちゃんがない、兄弟も少ない家庭が多くなってきていて、子育てする家庭の懐が浅くなってきていると感じている。遊休人材と考えると高校生、高齢者かなと思う。ここの人材をどう生かしていくか。自分達の古い物差しでなく、次の時代の豊かさの物差しとして何が良いか。自分軸ですみわけしたりすることは大人も必要。社会課題を含めたなかで、活動の入口をプレイフルにしながら進めることで良い方向に連鎖していくと思う。

(座長) 丑田さんは、地方の教育資産を世界の教育資産にしていこうとしている。都市・地方の体験などは全然違うものだし、両方あってもいいんじゃないかということだと思う。東京と糸魚川を結んでどんな体験ができるかを考えることも良い。

(座長) 会場のなかで、どなたか発言されたい人いますか。

(来場者1) 丑田さんの話はすっぽり頭の中に入った。糸魚川は宿場町。宿場町には、料亭、蕎麦屋、酒蔵、銭湯が条件と考えている。市場、案内所、寄り合い、演芸場などの遊びの場があると面白いなと思う。自分は糸魚川に大衆浴場を作りたいと思っている。皆さんとも改めてタッグ組みたい。

(座長) お子さんと一緒に来てくれた方もいらっしゃったというので、もうお一人どうですか。

(来場者2) 子どもと一緒に母国(イギリス)に帰った。母国と比較して支援センターとか保育園とか日本はいいなと思う。母国にはそういったものがないが、それに変わる地域の場がある。糸魚川には、逆にそのような場がないので、母親の息抜きができない。糸魚川の空き家とかを活用して遊び場を作っていくことは可能と思う。

(座長) これまでは、与えてもらうことが当たり前だと思っている。与えられないと不安になる。自分達で作っていくというチャレンジを部会で小さくても始めていくことがいいんじゃないか。目指すべき普通の社会「ここだからできる子育て」となっていく起点になっていくために、今日の丑田さんの話が役立てばと思う。今日の話再度まとめ、次回にお伝えすることとする。

## 5 その他、連絡事項

### ・部会の設置について(事務局)

今回のテーマにそった部会を設置。実践委員、会議来場者、識見者・実践者など希望する者で構成したい。

## 6 閉会